

俺の生きる道

ワンワ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

何番煎じか分からないガンダム物を

目次

3 話	2 話	1 話
11	5	1

1 話

かつて、戦争があった。

一つのコロニーの独立運動に端を発した紛争は、地球全土を巻き込む全面戦争となったのだ。

戦争が膠着状態となって8ヶ月、宇宙革命軍は地球に甚大な被害を及ぼすコロニー落とし作戦を切り札に、地球連邦政府に対して降伏を迫った。

これに対して連邦軍は極秘に開発していた決戦兵器、MSガンダムを導入。徹底交戦の構えをとった。

だが、この一撃が人類史上最大の悲劇の引き金となった。

勝利を焦った革命軍は作戦を強行、連邦軍も一步も退くことなくこれに応戦、戦いは泥沼となり、遂には人類全ての故郷であり地球に、致命的なダメージを与えてしまった。

100億を誇った人口のほとんどは失われた。もはや戦争に勝ちも負けもなかった

：

クソどうしてこうなった。

俺は今モビルスーツ3機に囲まれている。

ジエニス：宇宙革命軍が開発した凡庸の量産型モビルスーツだ。

「ハツハアツ!!死にたくなけりやそのガンダム置いてけえ!!」

敵モビルスーツからオープン回線から聞こえる言葉に反応して返答する。

「勿論…答えはNOに決まってるだろうがバアアルカン!!」

敵モビルスーツにそう叫びながら操縦桿のトリガーを引く

すかさずスラスターを吹かして接近ビームサーベルで正面にいたモビルスーツ切り裂く

卑怯だなんだとオープン回線から聞こえるけど3対1の方が卑怯だろうかと
こちとら今日乗ったばかりなんだぞと思いつながら応戦する。

2機…ラストオオツ!!

モビルスーツが完全に沈黙した事を確認しフウと一息つく

コレがこの世界の現実か…

どうしてこうなったんだろうかと思いつ返す。

オレの名前は 月下 海 ツキモトカイ

工場勤めのアラサーでオタクって程でもないけどガンダム作品が好きなの

くたびれリーマンだった。

交代勤務を終え空きっ腹にビールを流し込みながらゲームのオープニングを見た所

までは覚えていた。

激しい頭痛で目が覚めて気づいたら真つ暗な場所に座っていた。

明かりが欲しい……電気つけなきゃと思うと身体が覚えている動きで明かりをつける。

せ……戦場の絆かよ……

明るくなったソコはどう見てもコックピットで何度か遊んだことのあるアーケード

ゲームに似ていた。

目の前のモニターに写る文字を読む

「貴方は亡くなりました。この世界で生き抜いてください。」

はっ？ 死んだ？ ビール飲んでゲームしようとしただけだぞ

チラリと写った顔を見て更に驚く

誰だよコレ

17、8位の青年がモニターに写っている

死んだって言ってたから憑依ってやつか？

2次小説とか読み漁ってたから何となくは分かるけど

オリキヤラ憑依のロボット物かよ……

キヨロキヨロと当たりを見渡すとシートの横に置いてある被り物を見つけた。

持ち上げてみる、ヘルメット？ 変な形だな？ 専用の物だったりするかなと被ってみ

る。

ギヤアアアアアアアッ

喉が枯れるほど叫びながら見えてくる記録

自身のこと

戦争のこと

MSのこと

様々な記録記憶を呼び覚まされ気がついた

「カイはカイでもアンダーザムーンライトかよオ」

2話

様々な記録記憶を呼び覚まされ気がついた。

「カイはカイでもアンダーザムーンライトかよオ」

虚しく叫び声がコックピットに響く

機動新世紀ガンダムXのUNDER THE MOONLIGHT

ガンダムXを題材にした外伝で宇宙戦争から四半世紀経った後の作品だったよな。

んでカイは主人公のライバルでニュータイプもどきだったな。

主人公にガンダムX取られてガンダムベルフェゴールに乗るはずだから

今乗ってるのはガンダムXなのかベルフェゴールなのかによって時代が分かるはず。

そもそもなんで憑依なんかしたのだろうか。

先程の激痛はもう無いだろうと流れ込んだ記憶を思い出しながら原因を探す。

「あーなるほどな」

思わず声が出た。

どうやら第7時宇宙戦争のコロニー落としてニュータイプの力があつたものだから死んだ人々とチャンネルが合ってしまったと…。

コールドスリープされてたもんだから誰にも気づかれずに肉体は生きてる植物人間みたいだった所に俺が放り込まれたのか…。

コールドスリープされていた状態って事は今乗ってるのは何号機か分からないけどGX-9900 ガンダムXって事になるな

確かバルチャーのローザだかローサが船をサルベージしてその中に居たんだよな
ら今は海の底か？

このヘルメットはNシステムとか言う洗脳強化ヘルメットで間違い無いだろうしそんな怖いのはそつとシートの後ろになおしておこうつと

外に出てみたいが状況が分からないな

このガンダム動くのか？ヨシ試してみるか

カイの記憶と経験を元に起動させて行く

「コイツ動くぞってな」

外の状況をモニターで確認しながら一息つく

格納庫の中か海水で埋まってるわけでも無さそうだ

外出てみるかとコックピットハッチを開き

うわっ高え…階段とか整備用デッキとか無いのか降りる方法が無いとか終わったわ
コックピット内に何かないのかと探すとシートの下にワイヤーガンを発見した

ガロードみたいになれば降りられるか…怖いなコレと思いつながらやるしかなく開いたハッチにセツトし飛び降りた。

スタツと流石カイくん見事な着地だな

訓練の賜物だな

ヤツバアイヤツバイわガンダムですよガンダムかつこいい

憧れのモバイルスーツですよ奥さん

白のイメージがあるガンダムXですがカイのガンダムXは黒のカラーリングそれも

またカツコイイよね

ちよつと探索してみようか

軍用のバギーに弾薬

流石格納庫つて感じだな

コレはドートレス

連邦軍の開発した量産型モバイルスーツでバリエーションも豊富ない機体だよな

沈んでる場所や色々見てはいけないものなども見たが艦内には誰も生き残っていない

かった。

フウと一息付きつつ物色して確保出来たものを確認する。

収穫出来たのは携行保存食と水にアサルトライフルと拳銃弾薬

バックには詰め込んだけどコレはコックピットには収まらないな
「アイテムボックス!!」

憑依特典とかで貰えてないかと叫んでみたけど何も無いようだ。

ダメもとで同じように

「ステータス!!」

と叫んでみた。

ブウンつと目の前に表示されたGジェネレーションクロスレイズを模したステータス画面が出てきて驚愕する…。

マジか憑依特典あるやん…

カイ・ツキモト

指揮・180

射撃・280

格闘・250

守備・230

反応・260

覚醒・280

補佐・80

通信・50

操舵・40

整備・40

魅力 120

強キャラの予感がするぞコレ

アビリティ

ニュータイプ

憑依者特典（ステータス育成、空間倉庫）

つつ：

ニュータイプなのかオレ：

憑依者特典のステータス育成はレベルも上がるけどクロスレイズ方式でお金がいる

と：

空間倉庫あるやん：アイテムボックスじゃなくて空間倉庫ね手で触れて収納と言え

ばいいのか

どの位の大きさが入るかわからんけどどこどこにある物は入れれそうかな

「
収
納
!!
」

3 話

「収納!」

「収納!!」

「収納!!!」

手当り次第に必要なものを空間倉庫に入れていく

弾薬、車両、壊れてなさそうなモビルスーツ、食料

あらかた詰め込みが終わり格納庫内を見渡し

そろそろ出発するかと愛機になるガンダムXのコックピットへ戻った。

「GX-9900　ガンダムX出撃する!!」

ハンガー横に置いてあったドートレスの物と思われるシールドを左手に90mmマシニングガン腰部にマウントする。

シールドバスターライフルを右手に持ち出口であろう方向へと進むがハッチは開かなかった。

「やっぱり自動で開くわけないよな……こうなりやちよつと危ないけどやるしかないな……」

ハッチに向けシールドバスターライフルを構え出力を抑えつつ発射した。

出力を抑えたとはいえけたたましく鳴り響いた破壊音に驚きながらも無事ハッチの外に出られた。

「眩しい…コレがアフターウォーの世界か」

外は断崖絶壁で正しく船は海に落ちる寸前と言う形であったが無事に出られて一安心する。

「ギリギリだなあ…アンダーザムーンライトでこの船をサルベージされるって事は戦闘か何かの余波でこの船が海に落ちたってことだな…」

この後どうしようなどと考えながら思案の海に潜って行った。

モバイルスーツ運搬用のトレーラーが3台荒野を疾走する。

「サンバ兄おれ腹減ったよ」

小太りが文句を言い

「わかったわかったタンゴメシにしようジルバも良いな」

チビが返事をする

「了解だサンバ兄貴って言ってもロクな食材は残ってないけどな」

細身は残っている食材を考えながら返答した

「ジルバ兄ロクな食材がないってなんでだよ」

タンゴはジルバが答えた返答に不満を漏らしながら聞く

「前回の依頼でテメーがモビルスーツ壊すから修理費嵩んでるから仕方ないだろ！あとサンバ兄貴がまた情報屋からガンダムの情報買ったからだな！」

「うっ…なら仕方ないや次の依頼こなしたら贅沢にパーティ出来るよな」

ジルバの返答に仕方がないと諦めがついたのか次回に期待を持つことにしたようだ。

「しっかしサンバ兄貴のガンダム好きにも困ったもんだ10年以上前のデタラメかもしれないガンダムの情報を高値で買うんだからよ…」

自分達の懐具合を切迫しているのは兄のせいだと愚痴りながらも当てにならない噂を元に行動する自分にも嫌気がさす。

「そう言うなや…コレが終わったら仕事もする。俺たちの腕ならどのバルチャーだって雇いたいからなっ」

私情を挟んでいることは分かりながらも自分達の腕に自信を持って次があると弟達に言い聞かせた。

ドゴオオンンンツ!!!

「なんだアっ…爆発っ！戦闘かつ!!儲けるチャンスだ!!!」
響いた爆発音に驚きながらも新たなチャンスに胸を躍らせ爆発音のした方向にむかった。